

西田昌司参議院議員による沖縄戦の実相と史実を歪め、
否定する発言への抗議決議

令和7年5月3日の憲法記念日に那覇市で開催された憲法シンポジウムにおいて、自由民主党の西田昌司参議院議員が、ひめゆりの塔の展示内容に関して、「歴史の書き換え」や、「沖縄の場合には地上戦の解釈を含めて、かなりむちゃくちゃな教育のされ方をしている」等と発言した。西田氏の発言は、沖縄戦の実相を歪め、戦没者や戦争体験者を冒瀆し、県民の尊厳を踏みにじるものであり、強い憤りを禁じ得ず満身の怒りをもって抗議する。

沖縄戦体験者の証言や沖縄戦研究から明らかになってきた事実は、日本軍が本土決戦を遅らせるために沖縄で時間稼ぎの持久作戦を続け、沖縄を本土防衛のための「捨て石」としたことが沖縄県史などに表現されている。多くの住民が戦禍に巻き込まれ激しい地上戦となり、県民の4人に1人の尊い命が奪われた。これらは日本軍の作戦による犠牲であることは紛れもない歴史上の事実である。

後日、西田氏は「ひめゆりの塔」に言及したことを、「TPO（時、場所、場面）をわきまえるべきだった」と弁明したが、自身の歴史観や持論の正当性を主張し、沖縄の歴史教育や平和教育を非難した根幹部分は謝罪も撤回もしていない。西田氏は「自分たちが納得できる歴史をつくらないといけない」とも発言しており、一連の発言は沖縄戦の実相を認識せず、歴史を修正しようとするものであり断じて容認できない。

また、西田氏の発言を擁護する見解が、ある政党党首はじめ一部の政治家や識者から出ていることは極めて遺憾であり、看過できるものではない。

本町議会は、戦後80年の節目を迎えた今日、沖縄戦の教訓を受け継ぎ、平和を希求してきた町民、県民の想いを後世に伝え継承していくことを誓うものである。

西田参議院議員に対し、沖縄の歴史を真摯に学び、史実に基づかない自身の発言や認識が、ひめゆり学徒や沖縄戦体験者の証言を歪め、否定するものであったことを認めた上で県民に対して心から謝罪し、国政を担う国会議員としての言葉の重みを自覚し発言の撤回を強く求める。

以上、決議する。

令和7年6月10日
沖縄県嘉手納町議会

（あて先） 参議院議員 西田昌司 自由民主党総裁 石破 茂